

INDI'ES MOVIE NEWS/2

7/18(SUN) 仙台シネアスト主催 せんだいメディアテークにて

インディーズフィルムシアター レポート

・主催のシネアスト/阿部様からレポートをいただきました。

7月18日の「インディーズフィルムシアター」(仙台シネアスト担当)は、普段感じない緊張感での上映会でした。上映作品「シノブゴコロ」「+A」の監督・田平衛史さんが来られたからです。インディーズフィルムシアターとなって、上映作品の監督が会場に来られることは在仙特集をしたとき以外は初めてのことでした。しかも宣伝活動の遅れも加わって嫌な汗をかきながらの開始となりました。

結果から報告すると来客数30名と案の定少ない人数でした。が、そのほとんどが前半部分に集中していました。いろんな掲示板上に「監督さんが来られます」と書き、監督さんの話に興味のあった方が来てくれたようです

当日の田平監督の話は、

Q「『+A』は海外で上映してみ、海外の人はどんな感想を持っていましたか？」
A「そもそも日本映画というものを見る機会がないようで、商業映画・自主制作映画での分け方をしなかったようです。いい感動の感想をもらいました。」
Q「この映画は現代が舞台だったのですが、携帯電話など現代的なものが無かったのですが、意識してはぶいていたのでしょうか？」
A「携帯がきらいなんです。だから作る映画には出さないようにしています。」
Q「今回は2作品を上映したんですが、これらは何作目の映画なんですか？」
A「『シノブゴコロ』は初めてで『+A』は2作目です。ただ、無かったことにしているものが4つほどありますけど」

このような感じで、田平監督には舞台挨拶などをしてもらいました。上には書きませんが、見てもらうことにも気がつかっていると、海外での上映もコンペではなかったのですが、海外で見てもらったことはいい経験だったようなことも話されていました。

「観てもらおうこと」これはすごく大切なことで、宮城県内の作品に対して「インディーズフィルムシアター」が少しでも役立てるよう、今後の活動を考えていきたいと改めて思う上映会でした。

・阿部様、ありがとうございました。今後もこういったレポート等いただければ、積極的に掲載させていただこうと思っております。事前の告知等にも使っていただけると助かりますね。
・「シノブゴコロ」は静かな人気をよんでいます。AOGPさんのHPのブログや、他県の感想集等でも好評なようです。



▲シノブゴコロ/監督：田平衛史



▲GC / 監督：大島朋



▲配付されたチラシ

インディーズ
フィルム
シアター

インディーズフィルムシアター 年間開催スケジュール

10/17 デ・バルマ
11/6 仙台シネアスト
12/12 仙台ムービーパーティー
1/16 仙台シネアスト
2/20 リアスフィルム
3/6 東北学院大学

■インディーズフィルムシアターは自主制作映画上映会を行う在仙の団体や大学の映画研究会によって構成される実行委員会とsmtが共同で企画運営する上映会です。年間10回の実施を予定しています。

■12月の「ムービー〜」は、在仙大学を中心とした映像作家さん達の恒例の上映会。他、決まり次第この紙面でお知らせしてゆきたいと思えます。

■「自分の作品も上映してほしい!」という方、まだ大丈夫です!詳しくはシネアストさんに問い合わせを!

→<http://www.indies.jp>まで!

NEW GARAGE MOVIE FOR THIS CITY →

インディーズムービー INDIE'S MOVIE

from
RIAS FILM

2004 合併号

8/9

巻頭
特集

ショートピース! 仙台短篇映画祭 2004

毎年必見のプログラムで映像ファンのツボを突く「ショートピース」が、今年も開催!。告知十分ですが本紙でもちよっとだけ紹介!

スタッフの熊谷様からコメントをいただきました。ありがとうございます!

・第4回目を迎える「ショートピース! 仙台短篇映画祭2004」今回は映画を楽しんでもらうことに加え、トークも盛りだくさんで、観客参加型の映画祭とも言えます。連日ゲストが会場作品についての興味深い話や、制作の現場など、映画好きには勿論、作り手にもぜひ足を運んでいただきたいと思っています。若い監督たちの未知なる魅力の作品から、今や貴重な8ミリで上映されるレトロ作品、心を打つキアロスタミの作品、味わい深いドキュメント、バンコクの奇才によるピアノ演奏付アニメーション作品から、短篇映画祭にはなじみの深い田中要次・篠崎誠作品集、そして青山真治監督の4作品を一気に上映し、青山監督と樋口泰人氏による自作を語るトークなど、見逃せないプログラムを揃えました。観客に観られて映画は初めて映画になり、その場を共有することで映画祭は映画祭になります。今回は関連企画も加え、まさに映画祭の新たな挑戦元年、この3日間はどっぴり映画漬けになってお楽しみいただきたい。



▲探偵演マイク名前のない森
監督：青山真治



▲きわめてよいひうけい
監督：ホンマタカシ



▲留守番ビデオ 監督：篠崎誠

■スケジュール

9月18日(土)
■12:30 A 他人の悪夢
■14:30 B まなざしが届くもの
■17:00 C 新しい才能に出会う 金のささかま編
■19:00 C 新しい才能に出会う プラチナの牛タン編
9月19日(日)
■13:00 D 『10話』
■15:00 E 撮り続ける、青山真治1
■17:00 F 撮り続ける、青山真治2
9月20日(月・祝)
■12:30 G ウィスト・ボンニミット 短篇アニメーション
■15:00 H その男、田中要次
■17:00 I 篠崎誠WORKS

※Cプログラムは通しでご覧になれます。
※当日は諸事情により、プログラムの内容やスケジュールの変更がある場合もございます。あらかじめご了承ください。
・4プログラム回数券/3000円(枚数限定) Pコード:473-345
プレイガイド:メディアテーク1Fナディッフ ビスケットびあ(サンクス、セブーンイレブン、ファミリーマート)
・当日券 1プログラム券/1,000円

■2004年9月18~20日/せんだいメディアテークにて
■詳しくは <http://www.shortpiece.com/> まで! E-mail info@shortpiece.com

自分で映画を作ってみたい! いろんな映画を観てみたい!
絶滅寸前の自主制作映画の情報「紙」



BACK
WORDS
VOL.95

この情報紙は各所のご好意によりスペースを頂いて無料配布しております。定期的に上映会情報をお知りになりたい方は御一報下さい。DMを発送させて頂くかも? ★次号は10月20日発行予定

発行/リアスフィルム
TEL(携帯)
e-mail cdk51350@par.odn.ne.jp
責任編集 きしなみきよふみ